

### 「生き返った磯の海」

市議会は昭和52年度予算に対して、「磯海水浴場については、整備拡充に努力されるとともに、養浜計画については、今後ともさらに検討を続けられたい」という要望を行っていました。磯の海は自然の海岸が次々に埋め立てられていった本市にとって、ただ一カ所残された「なぎさ」で、海水浴シーズンには、毎年、新たな砂を投入してようやく利用できていました。

海水浴場の改修は、61年6月から翌年6月まで、5億9600万円余を投じて行われました。工事は突堤1000呎、潜堤140呎、階段工195呎、養浜用に投入された砂は7万5000立方呎、市庁舎東別館の約1・7杯分に上りました。階段工の背後は桜島や周囲の景観に調和するように、自然石を使った平板ブロック舗装の中に、カラー玉砂利でつくった絵模様を配置しました。投入した砂は下層部の粗砂が根占と指宿産、表砂には串木野産が用いられ、なぎさ線の延長は従前の1・

8倍、砂浜面積は3・5倍に広がりました。完成直後のシーズンには18万人の人出でにぎわいました。

また、改修直後の62年7月にはアカウミガメが上陸し、産卵しました。9月には81個がふ化し、見守っていた町内会の人たちの手で錦江湾に放たれました。ウミガメが産卵したのは、戦後初めてのことであったそうです。

暑さも一段と厳しくなってきましたが、磯海水浴場で夏を楽しんでみてはいかがでしょうか。



市民ぐるみでウミガメ保護